

- ① ダイナミック・プライシングを導入した場合のタクシー事業者、タクシー利用者、タクシー運転者それぞれにとってのメリット、及び、デメリットについて。
- ② ダイナミック・プライシングを導入した場合、タクシー事業者は現状よりも利益を上げることができるのか、諸外国の事例、また、シミュレーション等があれば示されたし。
- ③ ダイナミック・プライシングを導入した場合、タクシー運転者の賃金にはどういう影響があると考えられるのか。
- ④ 萩川自動車局長は、本年 2 月 22 日に開催された規制改革推進会議投資等 WGIにおいて、「ダイナミック・プライシングは、当然、事業者サイドという立場もありますけれども、利用者サイドからも利用しやすいということの要素も絶対あると思うのです」と述べている。そこで、絶対あるとする利用者サイドからみた利用のしやすさとは何か、具体的に示されたし。

タクシー運賃を需給に応じて変動させるダイナミック・プライシングについては、例えば、閑散時に割安な利用が可能となり、これまでタクシーを利用しなかった層の需要の開拓が期待されます。

ダイナミック・プライシングの制度設計にあたっては、海外事例の調査や実証実験等を通じて、タクシー事業者、利用者、運転者に与える影響や課題を把握し、その解決に向けた検討を進めることとしています。

- ⑤ ダイナミック・プライシングを導入した場合、利用者がダイナミック・プライシングで運行するタクシーと、従来の運賃で運行するタクシーとを事前に識別し、選択する方法について。

現在、配車アプリを活用して、タクシーに乗車する前に運賃を確定させる「事前確定運賃」が運用されています。例えば、「事前確定運賃」の仕組みを活用したダイナミック・プライシングの導入によって、従来の運賃で運行するタクシーとの区別が可能となり、利用者が選択して利用できると考えています。

(担当) 国土交通省自動車局旅客課



TEL:03-5253-8569

① 当事務所の資料要求に対して 4 月 30 日に提出された資料は、「タクシー運賃を需給に応じて変動させるダイナミック・プライシングについては、例えば、閑散時に割安な利用が可能となり、これまでタクシーを利用しなかった層の需要の開拓が期待されます」というものであった。そこで、これまで利用してきた層とはどういう層か、また、これまで利用しなかった層とはどういう層か、それぞれについて示されたし。

一概には申し上げられませんが、例えば、買物で重い荷物を持って帰る際に、通常は徒歩帰宅していた利用者が、閑散時の割安な運賃によって、タクシーを利用して帰宅するケースなど、運賃の変動による効果として期待されます。

② タクシー利用者の中での配車アプリの現在の普及状況、及び利用状況について(タクシー利用者総数に占める配車アプリ利用者の割合等)。また、配車アプリの今後の普及、利用の見通しについて。

一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会による調査結果によれば、法人タクシー事業者による配車アプリの導入状況(導入車両数÷調査回答車両数)は、平成30年度末現在で45.2%、令和元年度末現在で54.1%と増加しており、今後も導入が進んでいくものと考えています。

(担当) 国土交通省自動車局旅客課

TEL: 03-5253-8569